

# 幼稚園の遊びの中に

## 性差を観察する

六月二九日（金） 肌寒い、曇りの日、足立区立関屋幼稚園へ見学に行きました。ここは一年保育児の希望がたいへん多いため、二年保育児まで手がのばせず、四年前から、三年保育児共一年保育児ばかりとのことでした。

この地域は、夫婦共稼ぎ、母親勤務の家庭が多く、保育に欠けた子どもが多いとのことでした。幼稚園に入っの第一印象は、たくましく強い子どもたちだな、おとなに放り投げられている中で、何でも自分でやって生きている子たちだな、ということでした。

一年保育児は、お誕生日順に三クラスに分けられており、一番小さい子の、清水エミ子先生のクラスを見せていただきました。このクラスは、男二九名、女一七名、計四六名で、IQが八十ぐらいの子が三人います。この日は「おたふくかぜ」「水ほうそう」などで一四人がお休み。男一七人、女一五人でした。（八・三〇）～九・三〇）自由遊び

自由遊びの時間は、ほとんど男女が別々に遊んでいました。

三つ、四つのグループで、たまに男女が混

っていたのと、先生が一しょに遊んでいるグループは、男女が共に遊んでいました。遊びの様子を次に少し眺めてみます（他の二クラスも一しょ）。

### △男児の遊び▽

#### ◇プランコ

腰かけのついた四人乗りのプランコ三つは、自由遊びの間中ほとんど、男児で占められていました。プランコ二つは並べておかれ、一つは離れていましたが、並んだプランコでは六人離れたプランコでは四人が、楽しんで話をしています。六人はなかなか他の男児をのせようとしません。

A男「のっけて」

B男「のれないんです」

C男「夜までだめなんだよ」

D男「そう、だめでした」

しばらくしてからAちゃんは先生と共にまたやって来る。

先生「A君の口がってきたよ」

B男「こんなに？」（口をとんがらせて笑い

ながら)

先生「のせてあげなさいよ」

C男「のせてあげるよ」

先生「A君も、ちゃんと自分で、のせてというのよ」

A君ものり、七人で話を始める。A男も元気に仲間に加わる。

B男「おまえ、女のくさったのみたいだぞ、おまえなかなかあ、結婚したって！」

C男「へえ、結婚だって」

D・E・F男「わあ、結婚だって、結婚だって、結婚だって」とみなでひやかすので、B男はだまってしまふ。(環境の影響が何われらる)

そのうち一人の男児がブランコにぶつかって泣き出す。みていた三人の男児がそばへ来て、ブランコにのっている子に、  
「あんまりスピード出しすぎるからだぞ」  
「そうぞぞ」

「三人までのれんだぞ」。ブランコにのりこんで来る。九時二五分頃、今まで男児ばかりがのっていたブランコへ、元気のよい女児が一

人また少したつてもうひとりのもつて来る。

#### ◇砂場

始め二人の男児が、丸い筒状の汽車の積木をもつて、「ボーボー」とはいずりまわり、雑話のトンネルをくぐらせている。そのうち四人になり、もう一つトンネル、車庫がでける。二三人の男児が砂場の周囲でも汽車ごっこを始める。二人の男児、汽車ごっこで、おしゃもで砂を掘り出し。

G男「先生」

先生は穴をのぞき「あれ、水が出て来たね」

H男「こんなに深いと思わなかった」

先生「ほんとだね、井戸みたいだね」

G男・H君はまたどんどん掘っていく。

◇すべり台(二三人)、かんけり(四人)、縄で電車ごっこ(六人)、鉄棒(一八)、これらは、ブランコや、砂場のように長続きしないで、ちょっとみられたもの。

#### △女児の遊び▽

#### ◇砂場

赤いセルロイドの器に、A子、B子、C子が、しゃもじで砂を盛り、D子は、その上に草を立てている。黙々として、みなできれいかざり、A子・B子の二人が、たいせつそうにそっと、器をもつて、そろそろと歩き、先生にみせてから、こまかい砂利をまわりにのせて砂場へもどる。C子は空罐に砂利を入れて来る。A子・C子は砂を砂場にかけて、もう一度盛り始め、今度は、一番上の周囲は卵型の砂のおだんごをきれいに並べ、真ん中に草を立て、またA子、B子がそっとたいせつそうにもつて先生にみせる。

先生「あら、おいしそう。食べるまねをする。A子・B子はうれしそうに、にこにこする。先生のそばにいた男児も食べるまねをする。

先生「あらK男ちゃんも食べた、あはは……」。A子・B子うれしそうに笑う。二人の横で六人の女児がそれぞれ黙々として砂のケーキをつくっている。

◇ままごの家 三人の女児がままごとをちよつとする。三人の男児が、窓からからか

い、女兒は窓をしめる。

◇二人の女兒が手をつないでスキップ

◇たいこ橋(二人)、スベリ台(一人)、鉄棒

(七人)

◇繩の電車ごっこ(三人)

△男女混合の遊び▽

先生が一しよの遊び

◇ボール投げ

大きいボールで、男児五人、女兒三人がボール投げをしている。

◇ズイズイズッコロバシ

一人の女兒が、「先生これやろう」と、人差指と、親指で丸をこしらえてみせる。先生が近くの木の枝に腰をおろすと、男児二人、女兒二人がよって来てすわる。

先生が「こうして」と指を丸くしてみせ、みなが丸くすると「ズイズイ、ズッコロバシ、ゴマミソズイ」と先生がうたってやり出し、二度ばかりする。

◇繩とび

先生が長い繩とびひもの片方を、鉄棒に結

び、片方をもって大波小波や、ぐるぐるまわしてふると、女兒五人、男児一人が一列に並び順番にとぶ。

子どもだけの遊び

◇砂場

一人の男児が、砂場の周囲のコンクリートの上を、平均台を渡る時のように歩き、だんだん走り「早いでしょ」というと、その後について女兒四人が、何回も何回も走ってまわる。

◇繩の電車ごっこ 女兒三人、男児一人。

◇三輪車

始め男児が、前と後の荷物台に二人のり、女兒が二人後から押していたが、次に、女兒が前に一人のり、後から二人押し、男児一人を荷物台にのせて走る。

これらの混合の遊びは、数分の短かい間で、だいたいは別に遊んでいた。

◇お集まりの様子、男女児の助け合い

スピーカーから音楽(九・三〇)

みなお集まり——と走り出し、砂場の子た

ちは、近くにみていた母親にうながされて片づけ出す。

女兒が一人でブランコをはずしている。なかなかはずれないので片方だけはずして行こうとすると、二人の男児がとんで来てはずし、「これでもいいな、行こう」ととんで行く。

◇グループに分れて行進、男児は時々いたずら

集まった子から二人ずつ並んで歩き出し、皆先頭に続く。だいたい男児は男児、女兒は女兒で手をつないでいるが、数組男女の組がある。先生はだまって立ってみているだけで、子どもはどんだん庭のいろいろな方向へ、たいこばしをくぐったり、鉄棒をくぐったりして歩いて行く。先生が一本指をあげると、子どもたちはだまって、さっと一列に、二本指をあげると、二列に、三本で三列、四本で四列、五本で五列になる。

女兒はいつもきちんと歩すが、男児は時々二三人たいこばしにとびついたり、ちょっといたずらをする。すぐ後から「早く」とうながされるので、長い間いたずらすることは

できない。

一列、二列、三列はすぐできるが、四列、五列は少々たいへん。半分ぐらいのグループはすぐできるが、あと半分は、「このグループ少しおかしいわね、わかる人教えてあげて」と先生にいわれたり、先生と一しよに教えてやっどできるグループが二、三あり、他は、自発的に「あ、一人多い」とか「ここで切れ」などと他の子に言われてできる。

(一〇・〇〇 保育室へ入る)

◇日直さんを中心に「困ったこと」の話合い。

うがいがすんだ子から椅子にすわるが、二人の男児がまりつき、一人が木の舟に乗ってこぎ出す。先生はピアノでメダカの学校をひき始め、皆うたい出す。

先生「日直さん、日直さん」とうたうと「あそこです、あそこです」と指差し、日直(男児)が前へ出る。K男はまだぼかんと立っている。

先生「Kちゃんどうしたの?」

K男「いすがない」

さっとH男が歩いていすを持って行く

と先生「H男ちゃん、おとうさんだから、親切にもって行ってあげたけど、もって行かないことしようとお約束したでしょ? ああH男ちゃんお休みしていたね。じゃ日直さんH男ちゃんに教えてあげて」

日直「いすはもって行かないで、自分で捜すの」

先生「そう、H男ちゃんわかったわね、K男ちゃん足があるから、自分で歩いて探しに行けるって、この間みんな話し合ってたきめたの」H男が椅子をもとへ戻すと、先生「Kちゃん、探していらっしやい」

K男は、歩いて探して来てすわる。「ほらKちゃんできました。いつも立つてないでみんながうがいでいる間に探してすわろうね」(K男はIQが八十ぐらい)

先生「日直さん、お遊びの時のはなしして、困った人いた?」

日直「一人、Oちゃん」

先生「Oちゃん何困った?」

日直「体操のラジオがなったけどO君がね、いつまでもブランコに乗ったの」

先生「日直さんの発表上手だった。日直が困るからよそうね、どうすればいい?」

G男「注意」

先生「どういった?」

G男「体操の時間だから、ブランコやめなつて」

先生「ああそうね」

I男「今日、ぼく知らなかった」

C子「わたしも、みえなかったの」

先生「あら、そう。先生が困ったこと話すから聞いてね。歩く時先生の信号みえた?」

一同「みえた」

先生「この時は早いけど、四とか五とかはなかなかね、あ、K子ちゃん泣いてたね、どうして泣いたかみんなに教えてあげられる?」

何かいうがきこえない。となりの

I子「T君が知ってるんだって」

T男「お友だちがいらないんだって」

先生「そういう時はどうするの?」

Y男「さがすの」

先生「さがすのよ」

I子「T君がいいんだって」

先生「だれでもいいのよ、泣いてないで探すのよ。先生ね みんながなかなか並べないのよ、ずっと手をあげていてくたびれちゃったわよ」

K子「今度、先生の代りにわたしがやってやる」

先生「あはは……そう、じゃKちゃんにやってもらいましょう」

◇みんなで遊びの相談(一〇・一五)

各グループごとに机を外へ出したり、へやのすみへ積んだりして、椅子をへや一杯に輪に並べる。子どもたちは自発的にどんどんやる。四人でけっこう重い机も運ぶ。

先生「どこでもいいからすわってごらん」

子どもたちさつとすわる。

先生「休みのじゃまっけな いす どうしようか」

K子「あたしがなおす」とび出すと、五、六人の男女児がとび出しかたづける。

先生「M君がこういうのやりたいんだって、ききましよう」

M男「積木を台にしてその上にマットをのせ

て、その上でおすもうしたい」

N子「いい考えがある」と先生のところへ行く。

先生「N子ちゃんは、積木で陣地をきめて、その中でおにごっこしたいんだって」

A男「ねずみであそびたい」

先生「みんなが遊ぶほどねずみないから、お昼ご飯食べてからにしましょう。Aちゃんそれでもいい？」

A男、うなづく。

B男「これかくしごっこ」(くつを指差して)

先生「何ていうの」

C男「くつかくし」

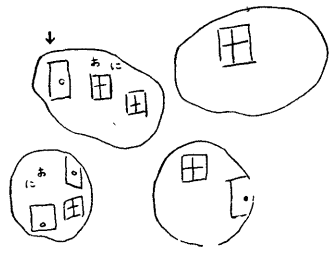
先生「じゃ、N子ちゃんの積木のおにごっこやりたい人、九人。B男ちゃんのくつかくしがいい人、五人。M男ちゃんのおすもうがいい人、十二人。じゃおすもうでいい？」

黒板に人数をかく。

数人の女児「N子ちゃんの」

先生「おすもうするとおなかがすくでしょ、先におにごっこしてからそれからおすもうして、ごはん食べましよう」。みな賛成する。

N子のかいたうち



(先生はごっこ遊びを考えていらっしやったが、希望が出なかった)

◇N子ちゃんの考えたおにごっこ

先生「じゃN子ちゃんの考えた陣地かいて」と白墨を渡すと、大きな楕円形をかく。

先生「それ何？」

N子「おうち」

先生「だれのおうち？」

N子「アパート……、窓かきたい」

先生「あら、かきたいんですって、まだだれのうちかわからないんだって」

Y男「ドアはどれ？ N子ちゃん、ドアがないと入れないよ」。窓をかいているN子に声

をかける。N子はドアもかく。

先生「一人じゃいそがしいから、白墨ころがして、とまったところの人おうちかいて」と三本ころがす。男児二人、女兒一人が出て来てかく。

先生「どこがオニのアパートにする」

一同「あそこ」と指差す。先生は白墨で、おにと二つのうちにかく。

先生「S君が何かいいこと考えてたわよ」

S男、先生のところへいいに行く。

先生「ああ、ちんちんのおにごっこですって、S君仲間探して三人でやって」。男児二人を選ぶ。三人じゃんけんする。

先生「かった子はどのアパート？」

数人「人間のアパート」

先生「オニは人間のアパートへ入っているの？」

数人「だめ」

ちんちんでおにごっこが始まる。三人ともオニのアパートも人間のアパートもなく、とびまわる。二回やる。

先生「オニもろともひっくりかえったから、

お友だち代って」。一人が二人ずつ選び六人選ばれる。男児のみ。

N子「おかまかくの忘れた」と先生の所へいいに行く。(N子のかいたうちが、オニのうちになったためらしい。女の子らしいと後で先生が話された)

先生「始まっちゃったからあとでかいて」

N子はうなずいて席へもどる。

先生「ここは陣地だから、ここへ入ったら足おろしていいの。U君はオニのアパート。わかんないから、つかまえたら、どこへつれて行くことにしようか」

三人「オニのアパート」

先生「じゃ、つかまった人は、オニのアパートで、しゃがんでいることにしよう」

今度は、今きめられたルールをまもっておにごっこをする。みなおもしろそうにみている。

先生「ああ、疲れてきたらしいから選手交替、何だか男の子ばかりやっているみたいね」

二人の女兒、手をつないで、女の子もやり

たいと、先生にいいに行く。

先生「男の子、男ばかり選ぶから」

女兒四人、男児五人選ばれる。次のグループは、女兒七人、男児二人。みんなは、違反がないかと、よくみて注意する。だんだんおもしろくなる。

◇M男ちゃんの考えたすもう(一一・〇五)

みんなでマット四枚もって来てしき、すもうの準備。

先生「どんな順？」

それぞれ「背の順」「並んでいる順」「こつちから」といい出す。

廊下側からやることになり、最初一番右の

男児が二人選ばれる。

先生「どんなすもう？」

A男「たちすもう」

C男「おしすもう」

先生「広いから、おしすもうにしましょう」(おしすもうは、両方でおし合い、マットからおし出された方が負け、たおれても続ければ。たすすもうは、取りこんでたおされた方が負け)

「行司に男児が選ばれる。みんな元気に応援して、次々とやって行く。三人の女児はやらない。男児は、すぐ元氣に出て行くが、女児は、ゆっくり出ていく。」

先生「女のおすもうさんは、のろのろしているからね」。元氣にとび出す女児もいる。だいたい女児は女児と取り組む順になっている。一通りすもうが終る。

先生「K男ちゃん、おふとんたんで」（IQの低い子に）

みんな出て来る。

先生「みんなまってる、K男ちゃんがたたむのよ」。K男はじめ二つにたたむ。

先生「いくつにたたむの」

数人「三つ」

先生「さあ、K男ちゃん、どうしたら三つにできるかな。Y男ちゃんもたたんで」（やはりIQの低い子）

二人とも考えて三つにたたむ。

先生「ああ、できたできた」

すもうをしなかった女児にもたたませる。

「はこびたい、はこびたい」とみなで運ぶ。

◇おとうさんおかあさんの子がおかたづけ

(一一・二五)

先生「おうちのとおとうさんとおかあさんたち、お掃除に残ってね。あとの人、でんでん虫をして、まわってから、遊びに行つて下さい」。みな外へ出る。

先生「それじゃ、おとうさん、おかあさん、早くたのみますよ。アジサイのおとうさんをS男ちゃんよんで来て」

女児は机をおろし、三人ほうきをとってはき出す。男児二人はけつに水を汲みに行き、また椅子を並べる。IQの低い二人の男児もおとうさんを選ばれている。

先生「Y男ちゃん、あんたおとうさんなんだってば」。Y男にこにこ笑って遊んでいる。先生「早くおとうさんたち、重たいの持って来てよ」

男児二人机をふき出す。男児三人、女児一人で外へ出した机を運ぶ。

女児も机をふき出す。男児二人、おぼんと、ミルク茶わんを運んで来る。どんどん目発的に用意される。

先生「長い針が9のところへ来たらみんなよんでね」

S男「8の次」

先生「そう」

みなおながすいたといい出し、用意ができたので食事にする。

◇食事

日直の人がうがいの順をきめ、うがいをす

先生「今日はアジサイのおかあさんに、いただきます をしてもらいましょう」

D子「いただきます」

一同いただきますをして食事。

保育室には、カメ、シジミ、ネズミ、キンギョなどの動物が飼つてある。子どもたちは、ソーセイジなどを床に落とすと、大ききによつて大きいカメや、小さいカメにやりに行

く。

をしました。

保育が終つてから、清水先生とお話を

◇子どもが自発的にどんどんできるので驚きました。

「入園当初から、自発性を養うことに力を入れていきます。自分でどんどんできるように、言いたいことは、どんどん発言するよに。どちらかというと母親の愛情に欠けた子が多いのですが、それだけに甘えたいのですが、むしろ思い切ってつき離して育てたいと思います。今日はちょうど元気の良い女兒がお休みでしたから、出ませんが、いつもなら今日みたいな時『おにごっこもおすもうも、男の子が好きな遊びでしょ、女の子の好きな遊びもしたい』と言い出します。男児の方が多いのですが、女兒も同じように発言し、負けていません。その点あまり区別しないで保育していきます。』

◇へやのグループは、先生がおきめになったのですか？

「子どもたちで六月八日にきめました。ですから、七人、五人と、人数がまちまちです。ただ、『おうちには、男の人も、女の

人もいるでしょ』といっただけで、男女が混ってできました。最初におとうさん、おかあさんを選びました。どのグループも、内気なおとなしい女兒が選ばれているようです。みんな、おとうさん、おかあさんになりたかったので、悪いことをすると失格にすることに自分たちできめ、あるグループは一週間たつと「今度この子におとうさんやめてもらったのだよ」と報告に来ます。おにいさん、おねえさん、赤ちゃんもあります。アジサイ、チューリップ、アサガオ、バラ、カーネーション、サクラ、ウメのグループの名前も、みんなできめました。始めは動物や乗物やいろいろな出てきました。が、なんとなく花に落ち着きました。」

◇日直さんは順番ですか？

「前の日に、一番良いことをした子がなります。今日の子は、みんな席を立ていていない時に立った時この子だけすわっていたので、みんなが選びました。日直のリボンと、おとうさんのリボンがついた時は、たいへん名誉です。先生お手製のいろいろな

リボンの中から、好きなものを選んでつけます。なかにずるい子が、あんた悪いことしたからおかあさんやめ、などといい出すと、他の子が、悪いことしないわよといい出し、ずるいことは通されません。先生の目をさける子どもができるのはいやですが、先生はおこらず大衆討論にかけるのが一番徹底します。友だちはいつも周囲にいますから逃げ道がありません。」

◇全体として、自由遊びの印象からは、三年保育、二年保育のある園より男女差があるように感じました。放っておくと差がでやすいのでしょうか？

「そう感じます。この組より、年令が大きいクラスの方が、もっと差があります。また、男の方こっち、女の方こっちと分けるような保育をすると、もっと差がつくのではないのでしょうか。クラス内で何かする時には、割に自然に男女が混っています。」

(一)

\* \* \*